

松尾倶楽部バス旅行に参加して

宮原 豊 (9組)

去る9月29日、松尾倶楽部第175回例会の「日帰りバス旅行」に参加しました。

松尾倶楽部は1971年発足の「上田経済問題懇談会」を前身とし、86年には「参加者同士の知識や経験を分かち合い、楽しみながら豊かな人間性と博愛の精神を養うこと」を目的に掲げて、専門家の講演会や施設の見学会等を積み重ねてきました。目的を聞くと固くて難しそうに聞こえますが、メンバーになるのに敷居は低く、また入ってみると楽しい集まりです。

筆者は、2019年11月第172回の講演会「五島慶太翁の業績と渋谷大開発～鉄道王を支えた教育への情熱」（講師：角田光男氏）の時に会員になり、その縁で2020年3月第173回例会において「日印関係の過去・現在・未来～今こそ緊密な関係を結ぶとき」という演題をいただき、「インド話」をすることになっていたのですが、折から猛威を振るい始めたコロナ禍のために開催中止となり、宿題として残されたまま4年が過ぎてしまいました。インドと日本は経済・外交・安全保障等全てにおいて今や互いに最重要なパートナー国になっているのですが、最近1～2年の混迷する世界情勢を見ると、宿題を提出するタイミングを逸したようです。インド・サールナートの釈尊一代記の壁画修復事業のことならともかく、現役を離れた自分には時事的な課題についていけません。

さて、今回のバス旅行の目的地は2か所でした。まず午前中は小県郡青木村の五島慶太未来創造館の視察、午後は上田のサントミュージゼで松奏会（上田高校吹奏楽部OB・OG会）の第10回演奏会に参加することでした。

参加者14名を乗せて朝8時に川越を出発したバスは、11時には2020年4月にオープンした五島慶太未来創造館に到着。沓掛教育長の歓迎ご挨拶の後、宮澤シニアマネージャー（館長）の案内により約1時間、上田高校の大先輩である五島慶太翁の、向学心に燃える少年時代、努力家で向上心旺盛な学生時代、行動的で企業家精神にあふれた壮年時代、さらに文化教育分野においても多くの業績を残した人生について学び、大い



に刺激されたのでした。五島慶太は長野県上田中学校の前身の長野県中学校（上田支校）に片道12キロの道を毎日徒歩で3年間通い、その後は長野県尋常中学校（松本）で2年間学びました。松本までは通えないので寄宿しましたが、とにかく昔の人はよく歩いたものだ后感心させられます。筆者は往路バスの中で、青木村の概要や歴史、また東京青木会について紹介しました。65期7組の櫻田喜貢穂君を会長とし、その下で筆者も副会長、IT広報担当として東京青木会の運営を担っておりますが、今年6月に第78回の総会・集う会を開催しました。東京青木会は大正7年（1918）に、五島慶太が創建にかかわった学生寮「千曲寮」の中に結成された「禁酒会」がルーツです。東京青木会の沿革も五島慶太未来創造館に展示されています。

サントミュージゼでの「松奏会」の演奏会については、松奏会メンバーの布施修一郎君（6組）がすでに寄稿されていますので、ここでは詳しくは書きませんが、実際に演奏しているOB・OGの中では最長老の65期2人が若い人たちに交じって頑張っているのを見て感銘を受けました。吹奏楽演奏は豪華で格好よくて素晴らしいです。演奏にリードされ、はじめに「上田高校校歌」、おわりに「信濃の国」を大きな声で斉唱、明らかに脳が1~2歳は若返った気がします。 以上



松奏会演奏会で、右から2人目に布施君が見えます。